

平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成24年8月3日
 上場取引所 大

上場会社名 シダックス株式会社
 コード番号 4837 URL <http://www.shidax.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 志太 勤一
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部長 兼 経理財 務本部長 兼 IR担当 (氏名) 若狭 正幸 TEL 03-5784-8909
 四半期報告書提出予定日 平成24年8月10日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績（平成24年4月1日～平成24年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	45,626	△0.0	577	39.0	359	—	△76	—
24年3月期第1四半期	45,631	△5.2	415	—	△23	—	△557	—

(注) 包括利益 25年3月期第1四半期 34百万円 (—%) 24年3月期第1四半期 △511百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	△2.03	—
24年3月期第1四半期	△14.34	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第1四半期	95,805	19,913	20.7	530.01
24年3月期	89,679	20,445	22.7	544.18

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 19,821百万円 24年3月期 20,351百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	15.00	15.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	0.00	—	15.00	15.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	93,000	0.0	1,850	△14.4	1,400	△12.6	100	△54.7	2.64
通期	195,000	3.6	7,000	18.8	6,000	23.6	1,000	28.0	26.35

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年3月期1Q	40,918,762株	24年3月期	40,918,762株
② 期末自己株式数	25年3月期1Q	3,519,630株	24年3月期	3,519,588株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	25年3月期1Q	37,399,168株	24年3月期1Q	38,899,371株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についての御注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

（四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法）

当社は、第2四半期決算及び期末決算において、機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催しております。この説明会で配布しました資料を当社ホームページ（<http://www.shidax.co.jp/ir/>）に掲載しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(6) セグメント情報等	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要などにより、経済活動に回復の兆しがみられたものの、ユーロ圏の債務問題を背景とした世界的な金融不安の拡大、長期化する円高や株価の低迷、電力供給不足への懸念などにより先行き不透明な状況が続いております。また、個人消費におきましても、震災後の消費マインド低下から回復の動きがみられたものの、厳しい雇用環境や所得低迷の長期化により、生活防衛意識や節約志向が高まるなど、企業を取巻く環境は厳しく推移しております。このような市場環境のもと、当社グループは、“フードサービスから公共サービスまで提供可能な水平垂直統合型の企業構造”で他社との差別化を図り、高品質・高付加価値のサービスを提供するとともに、より一層の「安心・安全」な管理体制の強化、グループ総合力を活かした営業拡大に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の連結売上高は45,626百万円（前年同四半期比0.0%減）となりました。利益面につきましては、営業利益は577百万円（前年同四半期比39.0%増）となり、経常利益は359百万円（前年同四半期は23百万円の経常損失）、四半期純損失は76百万円（前年同四半期は557百万円の四半期純損失）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① エスロジックス事業

当社グループのスケールメリットを最大限に活かし、安全性・信頼性の高い商品を徹底した衛生管理体制で一括発注・配送を展開してまいりました。また、一元物流システムをより合理的に活用できるよう、標準メニュー導入の促進、調達コスト・物流コストの削減、在庫の削減などに努めるとともに、同業他社とのアライアンスによる共同購買機構によって、スケールメリットを最大限に活用し、収益性の向上にも努めてまいりました。さらに、健康効果が期待される食事メニューの開発、トレーサビリティ、アレルギー関連など、付加価値の向上にも努め「安心・安全」な食材の供給を行ってまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の内部売上高を含めた売上高は10,945百万円（前年同四半期比3.0%減）、セグメント利益は978百万円（前年同四半期比2.7%減）となりました。

② コントラクトフードサービス事業

大手同業他社との競争激化に加え、各企業の生産調整・人員配置の見直しなどによる雇用環境の悪化によって、経営環境は大変厳しい状況にあります。このような環境のもと、「春感メニューフェア」などのイベント展開、一元物流システムの導入強化、コスト管理の徹底、既存店舗の解約防止、赤字店舗の運営改善強化などによって収益性の向上を目指してまいりました。また、多様化するお客様のニーズを的確に捉え、車両運行管理サービスなどを含んだ総合的なソリューション提案を行い、収益向上を目指すとともに、新規案件とも連動して開発を強化し、事業拡大に努めてまいりました。さらに、福島県相馬市の仮設住宅への食事提供、仮設住宅で食生活セミナーとクッキング教室を開催するなど、震災支援活動にも積極的に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は8,036百万円（前年同四半期比2.7%増）、セグメント利益は434百万円（前年同四半期比0.6%増）となりました。

③ メディカルフードサービス事業

メディカルフードサービス事業は、経済情勢により病院などの経営環境が厳しい状況の中、同業他社との競争は厳しさを増す状況が続いております。このような環境のもと、「春感メニューフェア」などのイベント展開、一元物流システムの導入強化、コスト管理の徹底、既存店舗の解約防止、赤字店舗の運営改善強化などによって収益性の向上に努めてまいりました。また、高品質なサービスの提供を行うとともに、セントラルキッチンを活用した「やわらかマザーフード食」など独自色の強い商品の提供を行い、お客様満足度の向上に努めてまいりました。さらに、トータルアウトソーシングを意識した新規クライアントの営業開発にも努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は8,867百万円（前年同四半期比4.2%減）、セグメント利益は295百万円（前年同四半期比3.5%増）となりました。

④ レストランカラオケ事業

レストランカラオケ事業は、震災後の市場動向の見極めが困難ななか、カラオケが身近なレジャーとして再評価され、カラオケ市場全体は堅調に推移しております。しかし、低迷する雇用情勢が続き、所得環境の改善が見込めない中、消費者の節約志向、さらには原材料価格の上昇により厳しい経営環境で推移しました。このような環境のもと、春・夏メニュー、「ゆったりランチ」の強化・推進、「歌って当てよう INAC神戸レオネッサ・プレゼントキャンペーン」などのイベント展開、水曜日女性ケータイ会員限定2時間無料（1オーダー制）の「レディースデー」、木曜日男性ケータイ会員限定2時間無料（1オーダー制）の「メンズデー」、女性会員様だけの特別企画「女子会PACK」の推進、マスメディア連動企画の取り組み、「コアラのマーチルーム」の提供など様々な集客施策を行い、販売促進を強化するとともに、コスト管理を徹底し、収益性の向上に努めてまいりました。また、ケータイ会員を拡大（500万人突破）し集客を図るとともに、ターゲットを明確にしたOne to Oneマーケティングによる個々の顧客へのアプローチを確立し、マーケティングの精度・効果の向上に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は10,771百万円（前年同四半期比2.8%減）、セグメント利益は77百万円（前年同四半期比59.2%減）となりました。

⑤ スペシャルティールレストラン事業

米国における状況は、失業率改善の兆しがみられたものの、世界同時株安の影響により、株価、個人消費動向が、先行き不透明な状況にあります。このような環境のもと、ケータリング受注の強化、季節メニューイベントなどの販売促進活動の実施により売上増加に努めるとともに、不採算店の撤退などにより、収益性の向上に努めてまいりました。国内における状況は、厳しい雇用環境や所得低迷の長期化による生活防衛意識、節約志向の個人消費傾向により、外食離れ、低価格サービスへのニーズの高まりなど、競合との競争が激化し、事業を取り巻く環境は厳しさを増しております。このような環境のもと、イベント企画の強化、会員限定プランの実施により、集客力アップを図るとともに、コスト管理の徹底を行い収益性の向上に努めてまいりました。また、お客様の多種多様なニーズにお応えするためのメニュー開発及び接客サービスの向上に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3,976百万円（前年同四半期比2.0%減）、セグメント損失は205百万円（前年同四半期は305百万円のセグメント損失）となりました。

⑥ コンビニエンス中食事業

同業他社、大手コンビニエンスストアとの病院内出店の競争激化や、経営状況の厳しい病院、学校、工場の縮小、閉鎖などにより、厳しい経営環境が続いております。このような環境のもと、新規店舗を12店舗出店、POSを効果的に活用し品切れ防止対策を図るなど、積極的、効率的な売り場展開を行い、店舗内外の営業強化に努めてまいりました。母の日・スカイツリー企画などの催事・イベントや紙オムツなどの衛生商品の販売促進に努めるとともに、労務費及び廃棄ロスの徹底管理により、赤字店舗の改善を行ってまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は3,527百万円（前年同四半期比3.0%増）、セグメント利益は94百万円（前年同四半期比33.4%増）となりました。

⑦ トータルアウトソーシング事業

トータルアウトソーシング事業における公共サービス分野では、地方自治体予算の削減や行財政改革推進の遅れ、また、民間サービス分野では、コスト意識のさらなる高まりから同業他社との競争が激化しており、厳しい経営環境が続いております。このような環境のもと、車両運行管理業務においては、お客様のニーズに応じた車両運行管理サービスの提案を行い、既存取引先の管理営業強化、スクールバスを中心としたバス運行管理業務の新規受注に努めてまいりました。社会サービス業務においては、従来の学校給食業務および図書館業務に加え、東京都世田谷区、石川県七尾市、広島県竹原市等より指定管理者として施設管理・運営を受託する他、東京都杉並区高井戸地域区民センターにおいてトータルアウトソーシングを新たに受託するなど、グループ総合力を活かした営業活動により、シェア拡大と受託先の適正運営による収益向上に努めてまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は9,458百万円（前年同四半期比4.3%増）、セグメント利益は474百万円（前年同四半期比19.6%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報**(資産)**

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ6,126百万円増加し95,805百万円（前連結会計年度末比6.8%増）となりました。流動資産においては、7,138百万円増加し35,250百万円となりました。これは主に、現金及び預金が6,614百万円、その他に含まれている未収法人税・住民税が344百万円増加したことによります。固定資産においては、1,012百万円減少し60,555百万円となりました。これは主に、有形固定資産が832百万円及び無形固定資産が223百万円減少したことによります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べ6,658百万円増加し75,892百万円（前連結会計年度末比9.6%増）となりました。流動負債においては、2,885百万円増加し42,304百万円となりました。これは主に、賞与引当金が1,119百万円減少した一方、その他に含まれている未払金が2,208百万円、1年内返済予定の長期借入金が780百万円及びその他に含まれている預り金が763百万円増加したことによります。固定負債においては、3,773百万円増加し33,588百万円となりました。これは主に、その他に含まれているリース債務が334百万円減少した一方、長期借入金が2,828百万円及び社債が1,240百万円増加したことによります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べ532百万円減少し19,913百万円（前連結会計年度末比2.6%減）となりました。これは主に、為替相場の変動により為替換算調整勘定が124百万円増加した一方、四半期純損失76百万円の計上及び剰余金の配当560百万円により利益剰余金が637百万円減少したことによります。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ2.0ポイント低下し20.7%となりました。

(キャッシュ・フローの状況に関する分析)

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ6,614百万円増加し15,637百万円（前連結会計年度末比73.3%増）となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、2,804百万円の資金増加（前年同四半期は2,281百万円の資金増加）となりました。これは主に、賞与引当金の減少額が1,133百万円あった一方、税金等調整前四半期純利益が361百万円、減価償却費が1,754百万円及び未払金の増加額が1,856百万円あったことによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、246百万円の資金減少（前年同四半期は422百万円の資金減少）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出が218百万円あったことによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、4,034百万円の資金増加（前年同四半期は3,531百万円の資金増加）となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出が2,827百万円、リース債務の返済による支出が856百万円、配当金の支払額が507百万円、社債の償還による支出が237百万円あった一方、長期借入れによる収入が6,314百万円、社債発行による収入が1,759百万円及び短期借入れによる収入が396百万円あったことによります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年5月18日に公表いたしました第2四半期累計期間及び通期の連結業績予想について変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,255	15,869
受取手形及び売掛金	12,938	12,968
商品及び製品	1,190	1,143
原材料及び貯蔵品	1,134	1,161
その他	3,609	4,122
貸倒引当金	△17	△15
流動資産合計	28,111	35,250
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	18,230	18,054
その他（純額）	8,824	8,167
有形固定資産合計	27,055	26,222
無形固定資産		
のれん	10,124	9,980
その他	1,911	1,832
無形固定資産合計	12,036	11,812
投資その他の資産		
敷金及び保証金	10,968	11,000
その他	11,992	11,984
貸倒引当金	△484	△465
投資その他の資産合計	22,475	22,519
固定資産合計	61,567	60,555
資産合計	89,679	95,805

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,027	7,956
短期借入金	—	410
1年内返済予定の長期借入金	11,163	11,944
1年内償還予定の社債	450	772
未払法人税等	943	583
ポイント引当金	324	318
役員賞与引当金	59	28
賞与引当金	2,241	1,122
株主優待引当金	223	179
その他	15,985	18,987
流動負債合計	39,419	42,304
固定負債		
社債	1,400	2,640
長期借入金	21,814	24,642
役員退職慰労引当金	551	556
資産除去債務	3,058	3,069
その他	2,990	2,679
固定負債合計	29,814	33,588
負債合計	69,233	75,892
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,781	10,781
資本剰余金	3,277	3,277
利益剰余金	8,838	8,201
自己株式	△1,130	△1,130
株主資本合計	21,766	21,129
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	73	56
為替換算調整勘定	△1,488	△1,364
その他の包括利益累計額合計	△1,414	△1,307
少数株主持分	94	91
純資産合計	20,445	19,913
負債純資産合計	89,679	95,805

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
売上高	45,631	45,626
売上原価	39,994	40,029
売上総利益	5,637	5,596
販売費及び一般管理費	5,221	5,019
営業利益	415	577
営業外収益		
受取利息	4	4
受取配当金	4	5
負ののれん償却額	39	37
その他	47	43
営業外収益合計	97	90
営業外費用		
支払利息	298	229
寄付金	143	—
その他	93	79
営業外費用合計	535	308
経常利益又は経常損失 (△)	△23	359
特別利益		
固定資産売却益	—	2
保険差益	11	—
その他	0	—
特別利益合計	11	2
特別損失		
災害による損失	9	—
レストラン等店舗閉鎖損	1	0
その他	2	0
特別損失合計	13	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失 (△)	△25	361
法人税、住民税及び事業税	352	690
法人税等調整額	181	△256
法人税等合計	533	434
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△559	△72
少数株主利益又は少数株主損失 (△)	△1	3
四半期純損失 (△)	△557	△76

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△559	△72
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	△17
為替換算調整勘定	49	124
その他の包括利益合計	47	107
四半期包括利益	△511	34
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△510	30
少数株主に係る四半期包括利益	△1	3

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△25	361
減価償却費	1,888	1,754
のれん償却額及び負ののれん償却額	214	198
賞与引当金の増減額(△は減少)	△974	△1,133
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△3	△21
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△11	△5
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△4	△44
受取利息及び受取配当金	△9	△9
支払利息	298	229
固定資産売却損益(△は益)	—	△2
保険差益	△11	—
売上債権の増減額(△は増加)	△798	△11
たな卸資産の増減額(△は増加)	△97	49
未収入金の増減額(△は増加)	172	145
仕入債務の増減額(△は減少)	146	△96
未払消費税等の増減額(△は減少)	425	139
未払金の増減額(△は減少)	1,539	1,856
未払費用の増減額(△は減少)	337	240
預り金の増減額(△は減少)	164	219
その他	△191	△32
小計	3,060	3,838
利息及び配当金の受取額	9	9
利息の支払額	△238	△183
保険金の受取額	13	—
法人税等の支払額	△563	△860
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,281	2,804

(単位：百万円)

	前第1 四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1 四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△155	△155
定期預金及び拘束性預金の払戻による収入	155	155
有形固定資産の取得による支出	△138	△218
無形固定資産の取得による支出	△152	△33
敷金及び保証金の差入による支出	△153	△222
敷金及び保証金の返還請求権買戻しによる支出	△11	△8
敷金及び保証金の回収による収入	34	243
その他	△0	△6
投資活動によるキャッシュ・フロー	△422	△246
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	411	396
短期借入金の返済による支出	△238	—
リース債務の返済による支出	△967	△856
長期借入れによる収入	5,232	6,314
長期借入金の返済による支出	△2,288	△2,827
社債の発行による収入	1,954	1,759
社債の償還による支出	△37	△237
配当金の支払額	△527	△507
自己株式の取得による支出	△0	△0
その他	△7	△5
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,531	4,034
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	21
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	5,394	6,614
現金及び現金同等物の期首残高	8,338	9,023
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,733	15,637

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

I 前第1四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								その他 (注)	合計
	エスロジ ックス事 業	コントラ クトフー ドサービ ス事業	メディカ ルフード サービス 事業	レストラ ンカラオ ケ事業	スペシャ リティー レストラ ン事業	コンビニ エンス中 食事業	トータル アウトソ ーシング 事業	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	201	7,823	9,255	11,083	4,056	3,424	9,071	44,917	713	45,631
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	11,079	156	3	7	22	1	37	11,308	396	11,705
計	11,280	7,980	9,259	11,091	4,079	3,426	9,109	56,226	1,110	57,336
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	1,005	432	285	190	△305	70	397	2,076	14	2,091

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、観光施設内物販飲食事業及びスポーツ施設附帯宿泊事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,076
「その他」の区分利益	14
セグメント間取引消去	△49
全社費用(注)	△1,626
四半期連結損益計算書の営業利益	415

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務、人事、財務、経理、情報システム部門等の管理部門及び企業イメージ広告に要した費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント								その他 (注)	合計
	エスロジ ックス事 業	コントラ クトフー ドサービ ス事業	メディカ ルフード サービス 事業	レストラ ンカラオ ケ事業	スペシャ リティー レストラ ン事業	コンビニ エンス中 食事業	トータル アウトソ ーシング 事業	計		
売上高										
外部顧客への 売上高	305	8,036	8,867	10,771	3,976	3,527	9,458	44,943	682	45,626
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	10,639	209	2	7	17	3	29	10,910	435	11,345
計	10,945	8,245	8,870	10,778	3,994	3,530	9,488	55,853	1,118	56,971
セグメント利益又は セグメント損失 (△)	978	434	295	77	△205	94	474	2,151	16	2,167

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、観光施設内物販飲食事業及びスポーツ施設附帯宿泊事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,151
「その他」の区分利益	16
セグメント間取引消去	△23
全社費用(注)	△1,567
四半期連結損益計算書の営業利益	577

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務、人事、財務、経理、情報システム部門等の管理部門及び企業イメージ広告に要した費用であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。